

2012年4月20日

生活協同組合コープあいち
理事長 寺本 康美様

コープあいちのめざすもの推進委員会
委員長 石川 美代子

答申書の提出にあたって

コープあいちのめざすもの推進委員会は、理事会から諮問された事項にそって、組合員の声や目線で、「あいちの新しい生協のめざすもの」について、合併後の進捗状況を検証してきました。当委員会では、約1年7ヶ月、調査と議論を重ねた結果、以下のように答申書をまとめましたので、提出いたします。

委員会の議論では、多方面にわたって多くの意見が出されました。答申に盛り込めなかった意見は別冊資料にまとめて提出させていただきますので、今後のコープあいちの運動・事業に生かしていただきますよう、お願いいたします。

最後になりますが、諸会議への出席や現地調査など、委員会の要望に積極的に対応いただきましたことに、心からお礼申し上げます。

答申書

コープあいちのめざすもの推進委員会

1. はじめに

旧めいきん生協では合併に向けた検討の中で、総代の皆さんより「新しい生協のめざすもの」実現に向けて、検証のための委員会を作ってほしいとの要望が出されました。旧みかわ市民生協では、「合併で組合員の声が届きにくくなるのでは」などの不安の声に応じて、理事会の責任で進捗を点検することをお約束しました。このような経過のもとで、コープあいち理事会の諮問委員会として「コープあいちのめざすもの推進委員会」が設置されました。

当委員会は、組合員の視点で「コープあいちのめざすもの」の進捗状況と課題を把握することに努めてきました。2010年10月から2012年4月までの検証活動を終え、ここに次期中期計画につながる課題と提言を答申いたします。

2. 委員会の開催経過

めざすもの推進委員会は2010年10月から19カ月間活動をしてきました。

- (1) 第1期・・・2010年10月～2011年5月、第1回～第4回委員会開催
- (2) 第2期・・・2011年6月～2012年4月、第5回～第12回委員会開催
- (3) その他、現地調査・検証を行ってきました。(詳細は後述)

3. 諮問事項と検証経過

(1) 諮問事項

「コープあいちのめざすもの」をよりよく推進するために

- ① 合併の円滑な進行の検証（3カ年計画の進捗状況の把握）
- ② 組合員の視点で、くらしと地域の声、めざすもの実現の課題把握

(2) 検証経過

第1期は現状を把握するため、組合員活動や店舗・福祉事業所など現地調査を行いました。

第2期は各部門の責任者からの報告をうけて、事業の進捗状況を把握しました。

全期間を通じて総代会議、「組合員参加と運営のしくみ」の検討会、職員集会等に参加しました。12回開催された委員会では、諮問事項について議論を積み重ねてきました。

4. 答 申

当委員会では「コープあいちのめざすもの」の4つの柱にそって、現地視察調査や責任者からのヒヤリング調査を実施した後、委員会で検証のための議論を重ねた結果、答申を以下のようにとまとめました。

<第1の柱> 「食の安全・安心」を第一に、生産者との信頼、顔の見えるおつきあいを強めます

1. 評価

「食の安全・安心」を第一にすすめ、「あいちを食べよう日本の食をたいせつに！」大運動では、様々な取り組みがすすめられています。

- (1) 「あいちを食べよう日本の食をたいせつに！」大運動では、あいちのお米・JAあいち知多のキャベツ・あいちの米たまご・産直豚肉をはじめ、私たちが利用のできる商品の幅がひろがりました。耕畜連携、資源循環型農業としての飼料米の活用も増え、商品案内の職員レポート企画から職員の参加の様子もうかがえます。TPPについては2011年より学習会をすすめてきて、同年11月には政府のTPP参加表明に対して「議論を尽くさず拙速な交渉参加には反対」とのコープあいちとしての意見表明が出されました。
- (2) 稲作体験交流会では、いろいろな地域で、田植え・案山子づくり・生きもの観察会・稲刈り企画などがすすめられています。これらの活動を通して「田んぼの果たす多面的な役割」が再認識され、豊かな自然環境や生態系を保全する取り組みに貢献してきました。これらの活動に組合員の参加も増えてきています。
- (3) 生協が一貫して追求してきた「食の安全・安心」の運動は、国の食品添加物や農薬、環境汚染の基準の見直しを促し、一般市場の食品の安全性も高めることに貢献してきました。現在コープあいちと東海コープ事業連合とともに、国の基準よりも厳しい品質・衛生指標を定めています。また「栽培自慢」「はぐくみ自慢」など生産者とともに安全・安心を保證する努力を重ねてきたことが大きな成果につながっています。
- (4) 東海コープ商品検査センターが商品案内に掲載している「おいしくて安全なおはなし」は、食の安全に関する情報を組合員に提供し安心を作ってきました。アレルギーや放射性物質など、その時々々の社会情勢に応じた検査をし、微生物や残留農薬検査では適合・不適合の判断だけでなくその原因究明をして、安全品質のレベルアップに貢献しています。

2. 課題

- (1) 「あいちを食べよう日本の食をたいせつに！」大運動や企画交流に組合員の参加が増えていますが、その運動の意味がまだまだ利用する組合員に浸透し切れていません。様々な場で、創意工夫を凝らした取り組みと広報活動が必要です。
- (2) 放射性物質測定器が導入されその検査結果の情報を、広報やホームページでお知らせをされていますが、その情報がなかなか組合員には伝わっていません。コープあいちの安全の考え方や取り組み・努力が正確に伝わるとともに、利用につながるように「お知らせレベルの向上とお知らせ方法の改革」が必要です。

3. 提言

- (1) 「あいちを食べよう 日本の食をたいせつに！」大運動の目的は、食料自給率向上や日本の農業を守ることにあります。そのことは私たちの食や暮らしを守ることでもあります。広い視野を持った取り組みの重要性を考え合い、利用を創り出す工夫をもう一段強めていくことを要望します。
- (2) 特に、東海3県の生産者団体・JAとの提携・協同をすすめ、「人間らしい暮らしの創造と持続可能な社会の実現」に向けた取り組みを強めてください。JA愛知東やJA愛知みなみとの「地域・くらしに貢献する総合的な提携」関係は一つの指針になると思います。
- (3) 組合員の声の分析をすすめ、量目、価格、品質、使い勝手など、組合員の思いに寄り添う生協らしい商品政策作りを要望します。
- (4) 放射性物質測定器からの検査結果だけではなく、検査結果の見方や考え方を説明し、食品の安全性を考慮した上、被災地産地への配慮がされることを要望します。
- (5) 東海コープ事業連合と連携して、ホームページで発信している商品検査センターからの

情報などをいろいろな場で組合員に伝える工夫が必要であると考えられます。タイムリーに有益な情報を伝えることで、組合員であることのメリットを実感できるように要望します。

＜第2の柱＞「組合員の願いに応える頼りになる事業をすすめます」

1. 評価

合併は大きな混乱もなく、事業全体にも福祉的視点で事業と活動の見直しが行われ、組合員の願いに応える事業の強化が進みました。また、2011年度の事業全体は増収増益となり、着実に強化されつつあります。

- (1) 共同購入事業では、eフレンズの改善がすすみ、商品の写真を見て注文ができるようになり、注文時間も配達日の翌日 22 時まで延長できました。2011 年 10 月には生活雑貨のアイテムを拡大して供給に貢献できました。買い物が不便な東栄町東菌目地域や日間賀島、篠島への配達も始まりました。また、長期未収金を減らす取り組みも成果が上がってきました。いずれも両生協が合併したことによる効果です。
- (2) 店舗事業では、「コープとよあけ店」が、お店委員会の活動と業務組織の努力が力となって、2011 年度の直接剰余が黒字の見通しとなりました。また、ジェット便の拡大、相生山地域における「相生山フレンズすすめる会」の組合員活動と職員との協力など、買い物弱者対策としての取り組みも進められました。
- (3) 福祉事業では、両生協が培ってきた共通の基盤と教訓を生かし、職場運営の課題に向き合い改善されつつあります。地域包括支援センターの委託を受けるなど、地域や行政の信頼も厚く、2011 年度には、経常剰余金が黒字に転換するところまで日常活動や経営的努力が発揮されています。

2. 課題

- (1) 組合員の声など、今まで蓄積したデータを生きた声として活用することが求められています。コープあいちには今までに組合員の声で開発してきた自慢の商品がたくさんありますが、これらの商品のよさを早急に組合員に語り継ぎ、広げていくことが重要です。
- (2) 注文の仕組み改善も行われていますが、利用する組合員の視点でさらに改善されることが大事です。また、組合員の生活環境も様々に変化しています。組合員の日々のくらしの変化に機敏に対応できる職員教育の強化も必要です。

3. 提言

- (1) 組合員の立場に立った情報公開・広報活動の充実・強化が強く求められています。また、組合員との日常的なコミュニケーションの重要性も高まっています。2020年ビジョンや中期計画の中では、組織的なシステム改善・改革とともに、組合員と組合員をつなぐ職員の積極的な関わり（役割発揮）を重視した検討を望みます。
- (2) 店舗事業は、構造改革・業務改革を一層すすめて、組合員の望むお店を組合員とともに作り上げることを望みます。また、高齢社会の進行に伴って市街地・住宅地の買い物が不便になることが予測されます。店舗を中心にして、このような社会的変化に対応できる事業改革・事業革新に早急に取り組んでください。迅速な具体化を要望します。
- (3) 職員教育の重要性は日増しに高まっています。単なる業務上のノウハウに留まらず、コープあいちの理念とビジョンを理解し、「平和とよりよい生活のために」組合員とともに

行動できる協同組合人の育成を要望します。また、配送センターや店舗などの事業所の中には老朽化が目立つ施設があります。職員が働きやすい職場環境の整備を要望します。

- (4) コープあいちは40万人を超える組合員の生協になりました。しかし、この数のメリットはすぐに表れるものではありませんし、また具体的に示すことも容易ではありません。県下全域に広がった組合員の協同の力で、商品の安全確保や扱い品目、価格的なメリットなどで魅力が増え、経営構造が強化されるなど、組合員の願いに応えられる生協になるように期待します。

<第3の柱>「身近なところで、組合員が、楽しく、いきいきと元気になれる生協をめざします」

1. 評価

「組合員参加と運営のしくみ」の検討では、地域ごとに組合員ときめ細かい話し合いが行われました。また、地域や事業所ごとにつどいやフェスタ・周年祭などが多様に開催され、多くの組合員が参加しています。

- (1) 「組合員参加と運営のしくみ」の検討は地域ごとに開催され、さまざまな場で活動している組合員が参加し話し合う場となりました。検討するにあたって、事業に対しても組合員主権を位置付けていること、組合員（組織）と職員組織が連携することで組合員活動と事業が一体となって生協を運営する基本的な考え方は評価できます。
- (2) 組合員によるつどい・フェスタや周年祭が開催され、それぞれに工夫をして多くの組合員が参加できました。それらの組合員活動に多くの職員が連携してサポートしており、このような取り組みが広がっています。
- (3) コープカレッジあいちやコープひろばが始まり、組合員の学ぶ機会が増えました。中でも、生協の社会的役割や生協は組合員が運営する組織であることが多くの組合員に理解され、様々なテーマに基づく勉強会やフィールドワークも多彩に企画されました。学ぶ機会が増えたことは、今後への期待につながると思います。
- (4) 総代をはじめ、組合員活動にいろいろな世代の参加者が増えてきています。コープひろばや子育てひろばをきっかけにして若い世代が、また利用だけだった組合員が様々な機会にいろいろな活動に参加参画するようになってきました。

2. 課題

- (1) 「組合員参加と運営の仕組み」を具体化していくには、地域の組合員が主体となすすめることが基本です。組合員のくらしと活動は、年齢や世代、ライフスタイルなどによって一人ひとり異なります。このような違いを超えて協同の活動をすすめるには、職員の役割が重要です。2012年度の業務体制で様々な改革が図られていますが、そのよりよい推進が不可欠です。
- (2) 総代をはじめ、組合員組織に新しい広がりが出てきました。しかし、組合員の声は全体に伝わっていないことも多く、業務・商品・システムの改善に十分生かされているとはいえません。

3. 提言

- (1) 組合員自らが企画し提案して成し遂げたときの充実感を共有することができれば、参加の仕方も変わってきます。そのような取り組みが地域に広がることを要望します。
- (2) 総代を務めることで商品や組合員活動、生協の社会的役割への理解が深まり、生協発展

に力を発揮できる組合員が育ちます。できるだけ多くの組合員が交代で総代を担い合うことを要望します。また、総代会の実出席率が低く書面議決の割合が高い状況で議決されることに疑問を感じる組合員もいます。今以上に実出席を上げる努力を要望します。

- (3) 2012年度は、本部職員がブロックに所属して地域での活動に参加するように業務組織が改革されました。組合員視点・現場視点を大切にして、組合員と理事・職員がより一層の信頼関係で結ばれるように要望します。理事会は、情報も広く開示しながら、組合員との議論を大切にする組織づくりと運営を強められることを要望します。
- (4) いつまでも暮らしを守る組織であり、健全な経営を持続できるコープあいちであり続けられるように、生協の主人公である組合員の自治・自立意識を高め、組合員・理事会・職員が一体となってコープあいちの運動・事業・組織運営に責任を持つことが必要な時代になりました。これからも、一層の努力を望みます。

＜第4の柱＞「地域のみなさんと一緒にくらしやすいまちづくりをすすめます」

1. 評価

行政への挨拶活動や首長との懇談会の取り組みが行われてきました。震災支援活動では、組合員と職員が連携して全力で取り組まれてきました。

- (1) コープあいちとなって、行政への挨拶活動や首長との懇談会の取り組みが行われました。行政の生協に対する認知度が上がり対応に変化が表れてきました。また多くの市町村と災害支援協定の締結もすすんでいます。
- (2) 福祉基金は合併してからは三河エリアにも広がり、多くの団体や組合員に活用され地域福祉の向上に役立てられています。
- (3) 組合員活動である「コープくらしたすけあいの会」が、地域に貢献していることが感謝の声として届けられています。また、生協の施設を利用した「寺子屋（コープ小幡店）」や「旬彩市（ふれあいコープあ・ん・ず）」などでは、地域の人々や諸団体とのネットワーク作りも始まっています。また、「安心して暮らせるネットワークのつどい」が開催され、様々な団体や個人とのつながり作りに貢献するなど地域のネットワーク作りも広がってきています。
- (4) 震災の復興支援活動は、コープあいちの方針の第一に掲げ、組合員と職員が連携しながら全力で取り組んできており、被災地の様子や支援の内容を地域につないでいます。この取り組みによってつながりの大切さや協同することのよさを実感することができ、組合員の信頼を強め、職員の成長にもつながりました。

2. 課題

- (1) 地域のくらしの支えあいが大切になっています。福祉事業と「コープくらしたすけあいの会」の連携をより強めていくことが必要です。
- (2) 地域の実情や願いを受けとめて行動できる人々が増えていくことが求められています。小さなつぶやきに敏感に気づいてつなげたり、連携する人々のネットワークをより広げていくような組織づくり・人づくり・場づくりが重要ではないでしょうか。

3. 提言

- (1) 組合員の暮らしの困りごとに対応できるネットワークがさらに広がることを期待します。復興支援活動に取り組んできたことを活かして、今後のコープあいちの備えを強めていく

ことを要望します。

(2) 県や市、町、村としっかりとしたつながりを持ち、お互いに意見交換できるような関係づくりを要望します。

(3) コープあいちは「すべての事業や活動を福祉の視点で見直し強化する」というすばらしい方針を掲げて出発しました。人間関係が希薄になって地域コミュニティも危うい状況です。人間らしい優しさにあふれた方針は、組合員の一員として誇りに思います。福祉的視点を大切にしたい、コープあいちの取り組みがよりよく広がるように期待します。

5. おわりに

委員会のメンバーは、公募委員と理事会推薦委員、理事委員で構成されています。地域や生協での活動経験が違うため、いろいろな角度からの視点で意見が出され、幅広い視野で深い議論ができました。委員会の任務は事実から課題を把握し提言をすることにあります。一方でコープあいちの良いところ探しであったようにも思います。

当初予定よりも調査活動や委員会開催の回数が多くなりましたが、各委員は意欲的にまた楽しく活動してきました。検証活動をする中で、いきいきと活動する組合員の姿と職員の頑張りを改めて確認することができました。

今回、組合員の声に応じて合併に関する検証をすすめられたことに深く感謝いたします。次期三カ年計画（13-15年度）の時も答申の提言を生かし、組合員目線を大切にしてすすめていかれることを期待しています。ありがとうございました。

6. 参考資料

<コープあいちのめざすもの> (両生協の臨時総代会で議決)

食とくらしの安全・安心への地域・社会の期待に応え、将来にわたって揺るぎない生協とするため、私たちは力をあわせ、よりよい商品・事業・組織と経営基盤の強固な、新しい生協をつくります。地域の一員として、社会に生活協同組合の価値を広め、アジアをはじめ世界の人々との協同の力で、平和でやさしさと希望にあふれる21世紀の地域社会の実現をめざします。

<第1の柱>「食の安全・安心」を第一に、生産者との信頼、顔の見えるおつきあいを強めます

<第2の柱>「組合員の願いに応える頼りになる事業をすすめます」

<第3の柱>「身近なところで、組合員が、楽しく、いきいきと元気になれる生協をめざします」

<第4の柱>「地域のみなさんとご一緒にくらしやすいまちづくりをすすめます」

<めざすもの推進委員>

(順不同・敬称略)

	氏名	備 考
公募委員	五十嵐俊一	
	杉浦正枝	
	竹田美枝子	
	舟橋育子	
	本多浩子	
	松井賢子	
	光井ますみ	
	山田朋子	
	渡邊陽代	
理事会推薦委員	石川美代子	委員長
	池野洋子	副委員長
	柴田貞子	
	中村敏子	
理事委員	八木憲一郎	(副理事長)
	大橋美由紀	(副理事長)
	磯村隆樹	(常務理事)
	仙田田鶴子	(有識者理事)

<調査・検証の取り組み一覧表>

日程	企画名
2010年10月23日	おさそい試食会 in 日間賀島に参加
2010年11月1日と5日	コープあいち組合員活動交流会に参加
2010年11月6日	第12回協同組合まつり(JA愛知東)に参加
2010年11月12日	コープとよあけ店・コープ大高インター店視察見学
2011年2月14日	組織政策検討会議に参加
2011年2月26日	くらしのステーション相生山・天白事業文化センター・本山店視察見学
2011年3月6日	第5回安心して暮らせるネットワークのつどいに参加
2011年3月11日～27日	春の総代会議にオブザーバー参加
2011年4月1日	岡崎地区のつどいに参加
2011年4月10日	全職員集会(共同購入部門・福祉部門・後方部門)に参加
2011年4月12日	豊橋地区のつどいに参加
2011年4月20日	全職員集会(店舗部門)に参加
2011年4月21日	とよかわ地区のつどいに参加
2011年4月28日	西三あおみ地区のつどいに参加
2011年5月11日～21日	総代会議案検討会にオブザーバーとして参加
2011年5月13日	豊橋センター、ふれあいコープあ・ん・ず、ケアコープ豊橋の視察見学
2011年6月14日	第2回コープあいち通常総代会にオブザーバーとして参加
2011年7月22日	東海コープ安全検査センター・住まいの事業部視察見学
2011年7月29日	東海コープ斎藤顧問(前安全検査センター長)との懇談会を開催
2011年8月24日	「第1の柱」に関わり、東海コープ斎藤顧問のヒヤリング調査
2011年9月21日～10月8日	秋の総代会議にオブザーバーとして参加
2011年10月12日～11月2日	「参加と運営」第3回ブロック連絡会・地区合同検討会に参加
2011年10月26日	「第2の柱」に関わり、共同購入事業と人事部門のヒヤリング調査
2011年11月18日	「第3の柱」に関わり、地域・組合員活動のヒヤリング調査
2011年11月24日～12月10日	総代交流会にオブザーバーとして参加
2011年12月21日	「第2の柱」に関わり、店舗事業と福祉事業のヒヤリング調査
2012年1月26日	「第4の柱」に関わり、地域・組合員活動と生活サポートのヒヤリング調査
2012年2月17日～3月2日	「参加と運営」第4回ブロック連絡会・地区合同検討会に参加
2012年3月14日～30日	春の総代会議にオブザーバーとして参加
2012年4月1日	全職員集会(共同購入部門・福祉部門・後方部門)に参加

※その他、地域で開催されたフェスタや利用者交流会などにも参加しました。

以 上